

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

二兎を狙い（1年生）、二兎を追い（2年生）、二兎を獲る（3年生）～希望進路の実現100%と自主活動の取組み100%～

- 1 第一希望の進路を実現する確かな学力を養成する。
- 2 さまざまな自主活動の体験を通して、しっかりした人権意識とグローバルな視点をはぐくみ、高い志を抱いて社会に貢献する人材を育成する。
- 3 芸能文化の学びの中で新たな自分を発見し、大阪の文化の発展に寄与できる人材を育成する。

2 中期的目標

1 進路を実現する確かな学力の養成

(1) 生徒が生き生きと学ぶ授業づくり

- ア 生徒が生き生きと取り組む魅力ある授業づくりのために、研究授業、学校教育自己診断、授業アンケート等を効果的に活用する。
- イ ICTを活用した授業を全教科で行い、進路実現とこれからの時代に求められる、知識・技能とそれを基にした思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成する。
- ウ 学習支援クラウドサービスを活用し、生徒の個別最適化の学びを推進し、生徒の第一志望の進路実現につなげる。

(2) 一人ひとりの生徒の希望の進路を実現する。

- ア 大学関係者・卒業生による講演や大学見学など、進路について考える機会を用意し、希望の進路を実現する強い意志を育む。
 - イ 年間を通じた自習室運営、長期休業中の学習マラソンなどに学校組織として取り組み、生徒一人ひとりの学習習慣の確立を図る。
 - ウ 外部機関を活用して効率的に情報収集、情報分析を行い、新大学入試に対応した生徒支援のための情報共有を進める。
- * 令和5年度の入試結果（国公立15名、関関同立130名（現役7クラス））を令和8年度の入試で国公立大学合格30名以上（R3:25名、R4:20名、R5:15名）、関関同立合格150名以上（R3:156名、R4:130名、R5:130名）とする。

(3) 生徒の心身の健康を育み、学力向上の土台作りをする。

- ア 遅刻・欠席を少なくするなど基本的な生活習慣及び自律的で規律ある生活態度を確立する。
- イ 生徒が心身の健康を保ち安全で安心な学校生活を送れるよう、教育相談体制のもと学校保健の取組みの充実を図る。
- ウ 災害や重大な事象に備えた危機管理体制を確立し、安全で安心な学びの場づくりを進める。
- エ 学校における新型コロナウイルス感染及びその拡大のリスクを低減したうえで、学習支援クラウドサービスを活用し、生徒の学びを保障していく。

2 自主活動の充実

(1) 生徒会活動をはじめとする自主活動の充実

- ア 働き方改革の中で、体育祭等の伝統の継承と持続可能な組織的運営を進める。
 - イ 生徒が積極的にかつ安全に部活動に取り組めるよう、指導者の確保や環境整備に努める。
- * 生徒向け学校教育自己診断における学校満足度を100%に近づける。（R3:89%、R4:89%、R5:91%）

(2) 外部連携とボランティア活動の充実

- ア チャリティーマラソンの実施（国内被災地やネパールへの支援）をはじめボランティア活動を積極的に推進する。
- イ 部活動・教科活動における異校種間の交流・連携、地域連携などを継続する。

(3) 芸能文化科の活動の情報発信と伝統文化の継承

- ア 様々なメディアを通じて、芸能文化科の教育内容や外部連携の内容が伝わるよう情報発信を行う。
- イ 外部との連携を推進し、芸能文化科が長年に亘って行ってきた活動を充実し、さらなる伝統文化の継承と社会貢献を行う。

3 人権教育、キャリア教育、国際理解教育の充実

(1) 自他を尊重することのできる幅広い人権教育に計画的に取り組む。

- ア 共生推進校としてあらゆる生徒が、授業、自主活動において、地域と連携しながらともに学びともに育つ教育をさらに推進し、その成果を広く発信する。

(2) 「総合的な探究の時間」等を活用し、自らの将来に希望を持ち自己実現に向けて努力を重ねることができるよう、SDGs（持続可能な開発目標）の視点も踏まえた、キャリア教育を引き続き、ICTを活用しながら計画的に推進する。

(3) 他者への思いやりと貢献意欲を強く持ち、行動に移すことのできる、地域社会・国際社会で必要とされる人材を育成する。

- ア WEB交流や国内外留学等により、国内外の諸問題について理解し、発信する教育を充実し、国際社会に生きる人材としてグローバルな視点を養う。
 - イ 国際社会における意思疎通の手段の一つとして重要な位置を占める英語でのコミュニケーション能力を高めるため、授業・補習にとどまらず、朝のHRを利用した英単語テスト、英語スピーキングテスト、レシテーション・スピーチコンテストなど様々な取組みを積極的に推進する。
- * 平成30年度から全員がスピーキングテストを卒業までに3回以上実施、英語学力調査において令和8年度の4技能平均CEFR B1以上を目標とする。

4 チーム学校のさらなる資質向上と学校の魅力発信

- (1) 学校の課題を常に点検し、教職員研修の充実を図る。
- (2) 校内研修の充実や、校務の精選・効率化、及び部活動の効率化により、働き方改革を推進する。
- (3) 様々なメディアを通じて、学校のさらなる魅力発信を積極的に行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>”【学習指導】</p> <p>○生徒への質問項目「授業を受けることで知識量が増えたり技術が身についたりする」は94%、「ICTを使った授業はわかりやすい」は91%となり、学習指導については、前年より3ポイント増加した。一方で、保護者は「内容がわかりやすく、ためになる授業が多い」と78%が回答しており、生徒と保護者の間に認識の差がある。公開授業を見学した保護者からは肯定的回答を得ていたため、次年度も保護者へ周知のうえ、充実を図りたい。</p> <p>○生徒への質問項目「1人1台端末を効果的に活用している」は94%が肯定的回答を</p>	<p>●第1回（令和6年6月21日（金）14:00～16:00）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値目標の設定は頑張れば達成できる数値を設定しているが、高い数値が保たれているのは生徒の満足度が高いということ。子どもたちは充実した高校生活を送っている。 ・定時退庁日の設定等の改革が良い傾向となり、教職員の時間外勤務時間が減少した。部活動のあり方が問われているが、これは学校教育全体の問題。教員をめざす学生が減少している中、効果的な制度を設けて、取り組んでもらいたい。

府立東住吉高等学校

<p>しており、前年より6ポイント増加した。また、「思考力を重視した問題解決的な学習を行っている」は、生徒が91%、教員が92%と前年からそれぞれ3ポイント増加した。なお、教員への質問項目「学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある」について、84%の肯定的回答があり、前年から22ポイントも増加していることから今年度の互見授業の成果が見られた。次年度においても、組織的な授業改善の取組みを充実させ、学校全体の授業力向上に努めていきたい。</p> <p>【進路指導】</p> <p>○「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」については、生徒は92%、保護者も「進路について適切な指導を行っている」については86%、教員は「一人ひとりにきめ細かい指導している」についても86%と、いずれも高評価である。進路指導については学校目標の一つである『第一希望の進路の実現』を達成するために、今後も教育産業や大学等外部の教育機関を活用しながら、生徒・保護者・教員が連携し、効果的な進路指導を実施していく。</p> <p>【教育相談】</p> <p>○生徒への質問項目「学校には相談することができる先生がいる」が81%となり前年度より4ポイント増加した。担任等を中心に生徒の様子を注意深く観察し、早期の気づき及び支援を実施できている結果である。一方で、教員への質問項目「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる」は81%と前年度より11ポイント減少していることから、一部の教員に業務が集中することがないように、組織的に教育相談を実施できるよう、教員間の連携を強めていきたい。</p> <p>【学校運営】</p> <p>○「東住吉高校で満足した学校生活を送っている」については、生徒が95%、保護者が94%肯定的回答をしており、どちらも前年よりさらに増加している。また、「学校行事に楽しく参加している」の項目では生徒が98%、保護者が95%肯定的回答をしており、どちらも非常にポイントが高い。生徒が将来にわたって必要な力を身に付けるとともに、充実した学校生活を送ることができるよう、組織的な行事運営を継続していく。</p> <p>○教員への質問項目「学校の教育課題について、教職員で日常的によく話し合っている」は83%と、前年より9ポイント減少した。今後も経験年数が長い教員の退職や異動等により、教員体制が変化していくことから、必要に応じて研修等を実施、同僚性を高めていけるよう工夫が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修や互見授業など生徒だけでなく、教員も本校でしか経験できないことに取り組んでもらいたい。 ・今後、私立学校無償化、少子化などが府立学校に大きな影響を与えていく。公立として、新たな取組みも含め、これからも「選ばれる学校」となっていくよう、継承、改善してもらいたい。 <p>●第2回（令和6年11月9日（土）10:45～12:00）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私学の授業料無償化の成果が今後わかる。公立も入試制度が変わることで早く進路を決められることがいいと思う中学生を獲得できるのではないかな。府教委へ現場の頑張りを是非伝えてほしい。 ・高校進学に際して、府民は経済面優先で選ぶ家庭が多いが、東住吉高校は全人教育をしっかりとっている。勉強以外もたくさんの経験をさせてくれる。そういった魅力をどう発信していくか。他の公立高校では定員割れなど厳しい現実がある。公立の良さを全面にアピールしてほしい。 ・2つの学科に加えて共生推進教室を運営するには校長のマネジメント力が問われる。教員研修のアンケートの肯定的回答が90%というのは校長の力を感じる。 <p>●第3回（令和7年1月24日（金）14:00～16:00）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断について、数値がわずかに減少している項目（保護者向け「授業公開等に参加したことがある」、教員向け「校内研修は教育実践に役立っている」など）は数値的には大変高い。維持したり、向上させたりすることは難しいので、現状でも十分高く評価できる。 ・中学校側から見て東住吉高校は大変人気がある。近くで生徒の様子を見ていて、行事や様々な活動が楽しそうである。 ・令和7年度学校経営計画のめざす学校像及び中期的目標について、承認する。 ・私学無償化の影響があるため、来年度の経営はとても重要と感じている。伝統を守りながら発展していくことを期待している。 ・昨年度、体育祭の継承が危ぶまれていたが、先生方が生徒と同じようにスタンドやマスコットを製作してくださった。伝統が継承されているが、そのための人材が不足しているなら同窓会を頼ってほしい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R5年度値]	自己評価
1 進路を実現する確かな学力の養成	(1) 魅力ある授業づくり			
	ア 新学習指導要領による授業内容の充実	ア・校内研修・研究授業により、観点別評価及びICTの効果的な活用について検証を継続して行い、授業改善をさらに推進する。 ・公開授業の機会を充実させるとともに、公開授業時の保護者アンケートの記述等により保護者のニーズを把握しながら効果的な学習支援について検討していく。	ア・生徒向け学校教育自己診断における「思考力を重視した問題解決的な学習指導」の評価85%以上とする。[88%] ・授業アンケート4点満点中3.4以上を維持する。[第1回 3.43、第2回 3.47] ・保護者向け学校教育自己診断における「授業公開等に参加したことがある」を86%以上とする。[85%]	ア 公開授業、研究授業の実施や教員相互の授業見学週間の設定など、授業改善への取組みを進めた。 ・生徒向け学校教育自己診断「思考力を重視した問題解決的な学習指導」の肯定的評価91% (◎) ・授業アンケート第1回 3.42、第2回 3.47、平均3.44 (○) ・保護者向け自己診断「授業公開等に参加したことがある」84% (△)
	イ ICTを活用した生徒の学びの深化	イ・あらゆる教科で学習支援クラウドサービスを活用した実践を継承・発展し、校内研修をさらに充実し、生徒の学びの深化を図る。	イ・生徒向け学校教育自己診断「ICTを使った授業はわかりやすい」の評価を引き続き90%以上とする。[91%]	イウ 課題等を適宜配信するなど、学習支援クラウドサービスの活用が定着した。 ・生徒向け自己診断「ICTを使った授業はわかりやすい」91% (○) ・生徒向け自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用」94% (◎)
	ウ 個別最適な学びの推進	ウ・生徒の個別最適な学びを推進するため、教育産業による学習支援クラウドサービスを全年に拡大し、教職員のスキルアップに努め、その成果を検証する。	ウ・生徒向け学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用」の評価を88%以上とする。[88%]	
	(2) 進路実現のための取組み			
	ア 外部教育産業との連携	ア・志望校情報交換会を前期・後期に開催して、生徒の志望校に関する情報を共有し、第一希望の進路実現を学校として支援する。	ア・国公立大学現役合格者数目標 25/320名以上 [15名] 関関同立現役合格者数 130/320名以上 [130名]	ア・国公立大学現役合格者数 22名、関関同立現役合格者数 118名 (△)
イ 大学等との連携	イ・大学・卒業生と連携し、進学相談会・大学見学会等の行事を充実する。	イ、ウ・進学相談会、大学見学会等を年16回以上実施する。[17回] ・生徒向け学校教育自己診断での「将来の生き方や進路について学ぶ機会がある」90%以上を維持する。[91%]	イウ 平日7時～18時30分、休日等は9時～16時30分に自習室を開室。学習マラソンを5月と7月に実施した。 ・進学相談会、大学見学会等を21回実施 (◎) ・生徒向け自己診断「将来の生き方や進路について学ぶ機会がある」92%。 (◎)	
ウ 自習室及びQAスペースの活用	ウ・自習室の運営や学習マラソンの充実、学習オリエンテーション、基礎学力調査の活用及び学校経営推進費によるQAスペースの活用により、懇談・質問への対応強化を図る。	エ・生徒向け学校教育自己診断「ICTの活用」の評価を引き続き90%以上とする。[91%] <<再掲>> ・ICTの活用による自宅学習を充実し、共通テスト入試結果のリスニング得点を前年度比3%増加す	エ・生徒向け自己診断「ICTの活用」94% (◎) <<再掲>> ・共通テストリスニング得点前年度比16%減少 (△) ・英語学力調査2年生スピーキングテスト平均スコア2.3%増加 (△)	
エ 個別最適な学びの推進と英語の4技能を伸ばす取組み	エ・学習支援クラウドサービスを拡大し、生徒の個別最適な学びを推進するとともに、生徒が主体的に英語の4技能を伸ばす取組みや授業の工夫を行う。			

府立東住吉高等学校

	<p>(3) 生徒の心身の健康の推進</p> <p>ア 教育相談体制の充実</p> <p>イ 進路実現に向けた生活習慣の確立</p> <p>ウ 危機管理体制の充実</p> <p>エ 感染症対策の充実と生徒の学びの保障</p>	<p>ア・学年団、支援担当が共有を密にし、組織的な教育相談体制をさらに充実し、迅速に SC や福祉窓口と連携した対応を行うとともに、生徒がより気軽に相談できる学校づくりを進める。</p> <p>イ・早朝の立ち番、挨拶運動、声掛け等の見守り体制を充実し、進路実現に向けて基本的な生活習慣を確立させるため、組織的な見守り体制を強化し、納得できる生徒指導を推進する。</p> <p>ウ・災害や重大な事象に備えた危機管理体制を確立するため、生徒・保護者への連絡体制のさらなる充実を図る。</p> <p>エ・感染症対策を充実したうえで、全講座で学習支援クラウドサービスを活用し、組織的に ICT の活用を推進し、生徒の学びを保障していく。</p>	<p>る。[12%増加]</p> <p>・英語学力調査の1・2年生スピーキングテストの平均スコアを前年度比3%増加する。[3%減少(1年2%↑、2年5%↓)]</p> <p>ア・生徒の相談体制を継続し、生徒向け学校教育自己診断における教育相談の肯定的回答77%以上を継続する。[77%]</p> <p>・いじめアンケートと教員によるヒアリングを年3回以上実施し、生徒・保護者向け学校教育自己診断における「いじめに真剣に対応してくれる」についての肯定的回答を、生徒、保護者とも88%以上を継続する。[生徒:89%、保護者88%]</p> <p>イ・遅刻数の3%減少。 [遅刻数2,566前年度比26%減少]</p> <p>ウ・ハザードマップや避難場所の周知を行うとともに、保護者・生徒への緊急メール・ブログの迅速な発信を行う。</p> <p>エ・生徒向け学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用」の評価を88%以上とする。[88%]《再掲》</p>	<p>ア 学年会、保健部会等において定期的に生徒情報を共有し、組織的に対応した。</p> <p>・生徒向け自己診断における教育相談の肯定的回答81% (◎)</p> <p>・いじめアンケート及びヒアリングを3回実施。自己診断「いじめに真剣に対応してくれる」の肯定的回答生徒93%、保護者88% (◎)</p> <p>イ 早朝の立ち番を継続。交通指導とともに挨拶指導を行った。</p> <p>・遅刻数2,964:前年度比17%増加 (△)</p> <p>ウ・防災避難訓練を2回実施し、緊急時の対応を周知。生徒・保護者への緊急連絡体制を確立 (○)</p> <p>エ・生徒向け自己診断「ICTの活用」94% (◎)《再掲》</p>
2 自主活動の充実	<p>(1) 自主活動の充実</p> <p>ア 伝統の継承と持続可能な行事運営</p> <p>(2) 外部連携・ボランティア活動の推進</p> <p>ア 外部連携の推進と情報発信</p> <p>(3) 芸能文化科の活動の情報発信と伝統文化の継承</p> <p>ア 芸能文化科の情報発信</p> <p>イ 伝統文化の継承と社会貢献活動</p>	<p>ア・働き方改革の中で、全教職員が生徒の人間力向上をめざし、体育祭等の伝統の継承と持続可能な組織的運営を進めるとともに、自主活動の成果を広く国内外に情報発信する。</p> <p>ア・近隣の保育園や社会福祉協議会等との外部連携、チャリティーマラソン、小中学生対象理科実験教室、クリーンアップキャンペーン等を積極的に推進し、自主活動の成果を広く国内外に情報発信する。</p> <p>ア・様々なメディアを活用して、芸能文化科の教育内容や外部連携の内容が伝わるよう、その成果を広く国内外に情報発信する。</p> <p>イ・大学・マスコミ等、外部との連携を推進し、芸能文化科が長年に亘って行ってきた活動を充実し、さらなる伝統文化の継承と社会貢献を行う。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「学校行事が盛んで、生徒は楽しく参加している」の肯定的回答95%以上を継続する。[97%]</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「ボランティア活動に参加する機会がある」の肯定的回答90%以上とする。[88%]</p> <p>ア・芸能文化科の活動のLIVE配信、中学校訪問を芸能文化科生徒全員で実施するとともに、中学校長会との連携を強化し、成果を発信する。[芸能文化科生徒1人1回以上とし、70回]</p> <p>イ・芸能文化科生徒による社会貢献活動を引き続き年4回以上実施する。[4回]</p>	<p>ア・体育祭、文化祭の組織的運営を進め、伝統の継承を図った。</p> <p>・生徒向け自己診断「学校行事が盛んで、生徒は楽しく参加している」98% (◎)</p> <p>ア 各種連携行事を予定通り実施し、好評を得るとともに、学校Webページのブログ等を通して情報発信に努めた。</p> <p>・生徒向け自己診断「ボランティア活動に参加する機会がある」90% (○)</p> <p>ア・生徒による中学校訪問は未実施。発表会のLIVE配信やSNS等を活用し、芸能文化科の成果を広く情報発信(50回)した (△)</p> <p>イ・「道頓堀春フェス」「生國魂神社ヤングNOH能」「長唄協会関西公演」「宝恵駕行列」等、地域と連携した各種イベントに4回以上参加。他に海外姉妹校との交流活動や地元企業とのコラボによるPV撮影も。次年度は万博のイベントに参加する予定。 (◎)</p>
3 理解教育の充実	<p>(1) 人権教育の取組み</p> <p>ア 人権を尊重した教育の推進</p>	<p>ア・3年間を見通した人権教育計画と教材により、生徒主体の参加型人権行事や教職員対象の人権研修を実施し、あらゆる場面で人権を尊重した教育を推進する。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「人権教育について学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答90%以上を維持する。[94%]</p>	<p>ア 同和問題をテーマとした人権講演会を実施するなど、人権HRを予定通り実施。教職員研修については講師の都合により中止となった。</p>

府立東住吉高等学校

	<p>イ ともに学びともに育つ教育のさらなる推進</p> <p>(2) キャリア教育の取組み</p> <p>ア SDGs の視点を踏まえた、キャリア教育の充実</p> <p>(3) 国際理解教育の取組み</p> <p>ア 国際交流や海外スタディツアーの推進</p> <p>イ 生徒による発表の機会の充実</p>	<p>イ・共生推進校としてあらゆる生徒が、授業、自主活動において、地域と連携しながらともに学びともに育つ教育をさらに推進し、その成果を広く発信する。</p> <p>ア・「総合的な探究の時間」において SDGs (持続可能な開発目標) の視点を踏まえ、ICT を活用しながらキャリア教育を充実し、積極的に情報発信をする。</p> <p>ア・国際交流や海外スタディツアー等により、国内外の諸問題について理解し、発信する教育を推進する。</p> <p>イ・英語でのコミュニケーション能力を高めるため、志学や特別活動の時間等を活用し、生徒による発表の機会をさらに充実する。</p>	<p>イ・生徒・保護者向け学校教育自己診断における「ともに学びともに育つ教育を実践」90%以上とする。[生徒：90%、保護者：91%]</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「将来の生き方や進路について学ぶ機会がある」90%以上を維持する。 [91%]</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「国際交流に参加する機会がある」85%以上とする。[86%]</p> <p>イ・教育産業による学習支援クラウドサービスの活用により、英語レシテーションやスピーチのコンテスト等を充実し、英語学力調査の1・2年生スピーキングテストの平均スコアを前年度比3%増加する。[3%減少(1年2%↑、2年5%↓)]《再掲》</p>	<p>・生徒向け自己診断「人権教育について学ぶ機会がある」96% (◎)</p> <p>イ クリーンアップキャンペーン等に共生生徒も参加。また全校集会等にて活動を紹介・周知するとともに、ブログ等を通して成果の発信にも努めた。</p> <p>・自己診断「ともに学びともに育つ教育を実践」生徒93%、保護者92% (◎)</p> <p>ア・生徒向け自己診断「将来の生き方や進路について学ぶ機会がある」92% (◎) 《再掲》</p> <p>ア 姉妹校との相互交流を実施。7月の台湾スタディツアーには30名の生徒が参加した。</p> <p>・生徒向け自己診断「国際交流に参加する機会がある」85% (○)</p> <p>イ 1年生において英語レシテーションコンテストを開催。</p> <p>・英語学力調査2年生スピーキングテスト平均スコア2.3%増加 (△) 《再掲》</p>
4 チーム学校のさらなる資質向上と魅力発信	<p>(1) 職員研修の充実</p> <p>ア ミドルアップダウンによる教職員研修</p> <p>イ 共生推進教育の充実</p> <p>(2) 働き方改革の推進</p> <p>ア 校務の精選と効率化</p> <p>(3) 情報発信の充実</p> <p>ア 学校HP等による情報発信</p>	<p>ア・ミドルアップダウンにより、校内の課題を分析・検討し、外部講師を活用しながら教員力アップにつながる参加体験型の実践的な教職員研修を計画的に実施する。</p> <p>イ・共生推進教室設置5年めとなり、進路実現につながる、ICTを活用した効果的な支援方法について、教職員研修等を通じて共有するとともに、その成果を広く発信する。</p> <p>ア・学習支援クラウドサービスを用いて、さらなる校務の精選と効率化を組織的に行い、全校一斉定時退庁日等の継続により、部活動の効率化による、働き方改革を推進する。</p> <p>ア・学校ホームページ、学校ブログを充実するとともに、学校案内やリーフレット等により広く情報発信をする。</p> <p>・芸能文化科、生徒会、部活動生徒による、効果的な情報発信を人権に配慮しながら、引き続き行う。</p>	<p>ア・教職員向け学校教育自己診断における「校内研修は教育実践に役立っている」90%以上を維持する。[90%]</p> <p>イ・生徒・保護者向け学校教育自己診断における「ともに学びともに育つ教育を実践」90%以上とする。[生徒：90%、保護者：91%] 《再掲》</p> <p>ア・時間外勤務時間のさらなる3%以上減少をめざす。[前年度比19.6%減少]</p> <p>・合同部活動をさらに推進し、上記指標を達成する。</p> <p>ア・保護者向け学校教育自己診断における「学校の情報提供」(保護者)89%以上を維持する。[89%]</p>	<p>ア 時機に応じた研修(個人情報保護、エビペン、いじめ対応、共生推進、指示事項等)を職員会議の直前に実施。</p> <p>・教職員向け自己診断「校内研修は教育実践に役立っている」76% (△)</p> <p>イ 職員会議等において共生推進教室の活動内容を共有した。</p> <p>・自己診断「ともに学びともに育つ教育を実践」生徒93%、保護者92% (◎) 《再掲》</p> <p>ア 全校一斉定時退庁日、時間外の留守番電話対応、WEBによる欠席・遅刻連絡等を徹底。合同部活動も推進。</p> <p>・時間外勤務時間1%減少 (△)</p> <p>ア 学校Webページを活用。「校長ブログ」を130回発信。</p> <p>・保護者向け自己診断「学校の情報提供」の肯定的評価85% (△)</p>